

天草教育拠点

1. 活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座の2番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2019年度は2名の常駐寄附講座教員と後期研修の専攻医1名でスタートしています。

設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献、②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに2次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。教育に関しては、2020年度はクリニカルクラークシップの受け入れ開始となり、1名の学生受け入れを行いました。また、初期研修医の受け入れも行えるようになり、システム上、学生や研修医がほぼいなかった昨年に比べると、少しですが前進しました。そのような学生や研修医、また、昨年同様、地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを行ってきました。

今後も、天草地域医療センター総合診療科に対して特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医(特に総合内科分野)としての役割だと思えます。今後も地域医療機関や院内のニーズも考慮しつつ、教育拠点としてできること、現状のマンパワーでできることを考えていく必要があると思えます。

2. 年間活動実績

- 毎週3回 WEB症例検討カンファレンス
- 毎月2回 合同WEBカンファレンス
- クリクラ受入1名

3. 活動報告

① 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1ターム3週間の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに1ターム1~2名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は1週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。

また、今年度から総合診療科としてのクリニカルクラークシップ受け入れも開始し、3週間の期間で1名に来てもらいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

総合診療科としてのクリニカルクラークシップとして来た学生は、担当患者から患者中心性について興味を持ち、実習終了に際し科内で発表してもらいました。

◆ 早期臨床体験実習

熊本大学医学部では、早期臨床体験実習として、3年生が各病院での実習を行われています。天草地域医療センターにも3名の学生が実習に来ることができ、すべて総合診療科で担当しました。

内容としては、認知症患者との雑談、外来患者へのインタビュー、リハビリテーションの参加、訪問看護の参加などを行いました。天草地域をベースに、地域の特徴を理解、把握したうえで診療を行うことの重要性を認識してもらえたと思います。

◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医は、昨年はシステムの問題で総合診療科ローテートが終盤まで許可されておりませんでした。今年度は特にシステム上もローテートが許可されており、複数名の研修医が選択してくれました。

指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

今後は、より多くの初期研修医が総合診療科をローテートできる体制を作っていただけることを大いに期待しています。

◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療Ⅱ」を担当しています。専攻医はこの1年は不在でした。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した後期研修医指導を行える体制を作っていきたいと考えています。

Ⅱ 診療

天草地域医療センター 総合診療科

月	火	水	木	金
鶴田	谷口 空田	松本	鶴田	松本 武末(2020.11～)

※ 火曜日の第2、第4週は谷口医師、第1、第3、第5週は空田医師
 ※ 救急外来については、適宜担当している。

Ⅲ 年間診療報告

昨年度から天草教育拠点の開設、天草地域医療センター総合診療科が常勤になり、平日は毎日外来を行っています。地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。また、COVID-19感染対策についても、発熱外来などで対応しています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

- ・ 医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
- ・ 院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

が重要な役割だと考えています。

外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患(悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝細胞癌、膵臓癌、胆管癌、尿管癌、肺癌、脊髄神経麻痺など)、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など、感染症(EBV伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、椎体炎・椎間板炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など)、膠原病関連(関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など)、運動器疾患(圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など)、ほかにも

悪性貧血、ネフローゼ症候群、肝硬変、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

また、現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士、認定看護師等と連携し、摂食嚥下チームのさらなる充実化を行っています。外部より歯科衛生士の参加なども計画していましたが、COVID-19感染対策の一環で外部招聘が難しく、現在のところ現実化していません。嚥下造影検査の検査数増加、嚥下機能についてアドバイザーとして地域ケア会議への参加なども行っています。

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ

I 概要

熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は40名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、4月・5月の開催を中止する結果となりましたが、その後はZoomを活用し、遠隔地の講師によるセミナーの開催等、オンラインの利点を生かしたゼミを開催することが出来ました。

1年生	5人
2年生	6人
3年生	6人
4年生	6人
5年生	11人
6年生	6人

II 活動報告

◆ 第1回地域医療ゼミ(2020年6月11日/オンラインにて開催)

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生5名の自己紹介、Zoomのブレイクアウトルームを利用したレクレーションを行い、学生間の親睦を深めました。

◆ 第2回地域医療ゼミ(2020年7月16日/オンラインにて開催)

熊本県医療政策課より医師修学資金貸与制度とキャリア支援プログラムについて、また、地域医療支援機構、地域医療支援センターより事業説明が行われました。その後質疑応答の時間を設け、貸与学生の疑問や不安を解消する有意義な時間となりました。

◆ 第3回地域医療ゼミ(2020年8月27日/オンラインにて開催)

令和2年7月3日に発生した「令和2年7月豪雨災害」で被災した人吉・球磨地域の医師2名(人吉医療センター 田浦尚宏先生、球磨村診療所 院長 橋口治先生)を講師に招き、「地域医療と災害」というテーマでご講演頂きました。被災しながらも地域の医療を絶やさないために復旧作業を早期から行い、医療活動の再開に尽力されていた医師の貴重な体験をお聞きすることが出来ました。

◆ 第4回地域医療ゼミ(2020年9月17日/オンラインにて開催)

今年度は新型コロナウイルスの影響により、毎年8月に行っている夏季地域医療特別実習(夏季実習)が延期となった為、これまでの夏季実習で学んだことを発表し、今後の夏季実習の改善点、要望等、学生からの意見の聞き取りを行いました。

◆ 第5回地域医療ゼミ(2020年10月15日/オンラインにて開催)

テーマを「卒業生に聴く」と題して、医師修学資金貸与制度を利用し卒業され、現在専門研修中の医師として活躍されている先生(小国公立病院 総合診療科 松田圭史先生、天草地域医療センター 脳神経外科 山村理仁先生)を演者として招き、卒業生の生の声をお聞きした後質疑応答の時間を設け、学生がこれからのキャリア選択について知見を深める機会となりました。

◆ 第6回地域医療ゼミ(2020年11月19日/オンラインにて開催)

多職種連携・地域包括ケア教育の機会として、公益社団法人「認知症の人と家族の会」熊本県支部 代表本山さつきさんをお招きし、実際に認知症を患ったご家族のリアルな介護体験、介護を通して感じた家族の思いや医師への要望等をお聞きすることが出来ました。今後、急速に高齢化が進む地域の医療機関に従事する学生にとって、医師としてどのようなことが求められるかを考える重要な機会となりました。

第6回 地域医療ゼミ
「認知症の家族に聴く」
親族の経験を聴いて、これからの医療の在り方について考える

公益社団法人「認知症の人と家族の会」
世話人代表 本山 さつき

日程
2020年11月19日(木) 18:00～19:10
オンラインにて開催

お申し込み方法
お申し込みは11/18(水)まで
お申し込みは、事前に申し込み下さい。お申し込みは、お申し込みフォームからお申し込み下さい。

お問い合わせ
熊本大学病院 地域医療・総合診療医学科学習講座
Mail: chik_soujin@kumamoto-u.ac.jp
TEL: 096-373-5721 (熊本事務 山口)

◆ 第7回地域医療ゼミ(2020年12月17日/オンラインにて開催)

「動画を観て語り合うシネマデューケーション」と題し、様々な先進的なテーマに取り組んでいる世界各国の知識人によるプレゼンテーションを提供しているTED(Technology Entertainment Design: 通称テッド)の中から、現在の社会状況にマッチした内容のプレゼンテーション2つを参加者全員で視聴するかたちで行いました。その後、ブレイクアウトルームを利用して、視聴したプレゼンテーションに対するグループディスカッションを行い、活発な意見交換の場となりました。

第7回 地域医療ゼミ
2020.12.17(木) 18:00
オンライン(ZOOM)開催
事前申し込みあり

「動画を観て語り合うシネマデューケーション」
シネマデューケーション(Sinema Deeducation)とは、映画、ドキュメンタリー、アニメーション、エッセイ、プレゼンテーションなど様々なジャンルから、興味を持って見てもらうための企画です。様々な先進的なテーマに取り組んでいる世界各国の知識人によるプレゼンテーションを提供しているTED(Technology Entertainment Design)のプレゼンテーションを題材にシネマデューケーションを行います。オンラインでグループディスカッションも行う予定です。参加の申し込みは、事前申し込みフォームから行います。多岐に亘るテーマをご用意しております。

◆ 第8回地域医療ゼミ(2020年1月21日/オンラインにて開催)

熊本県医師会とのJoint企画として、医学生・研修医をサポートするための会のセミナー「地域医療とワークシナジー」に参加しました。地域医療支援センターの後藤理英子特任助教より出産・育児のタイミングとバランスについて実体験を基にご講演をいただいた後、春日クリニックの上野真理子先生より「治し支える医療、家事や育児が強みになる現場より」、くまもと在宅クリニック阿部真也院長より「一在宅医の経歴」と題した講演をお聞きする貴重な機会となりました。

地域医療とワークシナジー
2020年1月21日(水) 18:30-20:30
【場所】熊本県医師会またはオンライン
【対象】医学生、研修医、若手医師(男女問わず)
【参加費】無料

講演者
後藤理英子(熊本県医師会)
上野真理子(春日クリニック)
阿部真也(くまもと在宅クリニック)

◆ 第9回地域医療ゼミ(2020年2月18日/オンラインにて開催)

熊本県医療政策課の方より、「制度とキャリア」をテーマに、キャリア形成プログラム、専門医制度についての説明、質疑応答を行いました。

◆ 第10回地域医療ゼミー追いゼミー(2020年3月26日/対面にて開催)

今年度最後となったゼミは6年生の追いゼミとして、初の対面による開催となりました。学生31名が参加し、レクレーションとしてグループディスカッションを行った後、卒業生挨拶、花束贈呈で6年生の卒業を祝いました。また、皆勤賞、功労賞の表彰、次年度より新たな幹事学年となる4年生代表からの挨拶や来年度の地域医療ゼミの実施計画についても説明がありました。



2. 令和2年度卒業生

● 安倍 悠乃

熊本大学医学科6年の安倍です。入学してすぐのころは果てしない道のりに感じた6年間も今振り返るとあっという間に感じます。特に2年次には熊本大地震があったり、現在は新型コロナが大流行したりと、学生生活に不安を感じる機会も多々ありましたが、無事卒業できることに安心しています。

毎月行われる地域医療ゼミでは、地域で働く先生や卒業生の講演会を聞く機会があったり、新専門医制度などの制度について学んだり色々なテーマについてセッションする機会があったりたくさんの活動をしてきました。その中でも一番印象に残っているのは、臨床推論です。以前テレビであった総合診療医ドクター Gのように症例が提示され、少しずつヒントをもらいながらみんなで話し合い疾患を特定していくのは、謎解きのようにもあり、下級生の頃から知識がなくわからないなりに先輩方に教えてもらいながら楽しんで参加していたのを覚えています。

また、夏季実習では、地域の中核病院や診療所など様々な規模の病院や福祉施設などの医療施設を見学することができた他、行く先々の地域の食べ物や産業に触れて地域の魅力を知ることができたり、ともに参加した自治医科大学の学生とも交流を深めることができたことはとても良い経験になりました。

地域枠ゼミや夏季実習などの活動を通じて、6年間で地域医療や総合診療について多くのことを学ぶことができました。4月からは初期臨床研修医としての生活がスタートするので、ここで学んだことを生かし、研鑽に励んでいきたいと思っています。

新型コロナの影響もあり、直接顔を合わせての挨拶はできない状況でありますので、この場をお借りして感謝の意を述べさせていただきます。地域医療ゼミで学ぶ中でお世話になりました皆様ありがとうございました。今後よろしくお願いいたします。

● 今田 真亜子

月日が経つのは早いもので、あっという間に私も卒業する年となってしまいました。振り返ってみると、部活と勉強に勤しんだ6年間でした。このように、充実した学校生活を送れたのも、医師修学資金制度のおかげだと、誠に感謝しております。

入学した当初、私は地域医療とは何なのかよく理解できていませんでした。月1回の地域医療ゼミや夏季実習を通して、地域医療について深く考える機会が増えました。毎月のゼミでは臨床討論を行い、医学の知識を深めたり、シネメデュケーションにおいて、映画を見て医師としての在り方を考えたりすることができました。毎年夏に開催される地域実習では、天草や上益城、玉名などの地域を訪れ、実際の地域医療がどのように行われているのかを肌で感じることができました。そして、その地域の医療をよりよくするためにはどうすればいいか、医師として地域の方たちに求められるものは何なのかなどを考えました。他学年の学生や自治医大生と一緒にグループになって、話し合ったことを覚えています。また、地域の文化や産業に触れ、その地域の良さを知ること、将来、地域で働くことのイメージをすることができました。6年間で学んだことは大変貴重な経験となっています。

4月からはよいよ初期研修医として働くこととなります。6年間で学んだ経験をもとに、これから熊本県の医療に少しでも貢献できるよう、精進していきたいと思っています。地域の皆様に信頼される医師になりたいと思います。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄付講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、多くの方々に日頃より多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。6年間充実した学校生活を送れ、無事卒業できるのも皆様のご指導とご支援の賜物だと深く感謝しております。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

● 詹 翔叡

令和3年2月12日現在、第115回医師国家試験も無事終わり、合格発表の日を悶々としながら待っている状態です。地域の「地」の字も医療の「医」の字も知らずに入学したあの日からあっという間に6年経ってしまいました。今回は地域枠として入学してからの6年間をざっくりと振り返ろうと思います。

地域枠として入学した自分にとって一番大きな存在だったのはやはり地域医療ゼミと夏季実習です。地域医療ゼミでは臨床推論を通して鑑別疾患の考え方や診察・検査の進め方を勉強できましたし、シネメデューケーションを通して医師として必要な心構えやプロフェッショナリズムについて考える機会を得ることができました。夏季実習では県内各地域の医療や介護の現状や問題点を、実際に自分の目で見たり、その地域で診療していらっしゃる先生や介護施設の方、行政の方から教えていただける貴重な機会になりました。またフィールドワークを通して産業や観光などその地域の魅力を知ることができたのがなにより良かったです。これらの経験は地域枠として入学していなかったら絶対に得られなかった経験だと思います。

国家試験に合格できたら、4月からは研修医として仕事と勉強の日々が始まります。今年度は新型の感染症が猛威を振るい、今までの生活がガラリと変わってしまいました。この感染症を克服したとしても、10年後20年後にまた同じような事態に見舞われる可能性がないとは言い切れません。そのような事態が発生した時に熊本の医療を、ひいては日本の医療を守るための一翼を担えるよう精進していく所存です。最後になりますが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの皆様、夏季実習でお世話になった方々、6年間大変お世話になりました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

● 松田 崇秀

私は小さい頃から医師になりたいと思っていたが、地域医療というものについて考えたことはなかった。しかし熊本で生まれ育った私にとって、熊本の医療に貢献することへの抵抗感はなく、医師不足で困っているなら自分がやろうという意気込みで入学した。入学後、最初はゼミでついていけないこともあり、知識のなさからどんな問題があるのかも分からなかった。しかしそのような時には、近くの上級生がいるという教えてくれたため、理解することができたように思う。

少しものが分かり始めた2年生、熊本を地震が襲った。経験したことのない強い揺れで、益城や南阿蘇を中心に大きな被害が出た。熊本には大きな地震は来ないという固定観念があり衝撃は大きかったが、震災時に医師や病院がどう対応したのか実際に聞くことができたのは今後のためになったと思う。

基礎医学、臨床医学、臨床実習と学び、気が付くと5年生、ゼミ等で中心的役割を果たす学年となっていた。どうすれば下級生も参加しやすいか、分かってくれるか、自分が下級生だった頃を思い出しながらゼミの内容を考えたり教えたりした。

こうして6年間を振り返った際に1番記憶に残った、勉強になったのはやはり夏季実習だと思う。下級生の頃は地域で医者が足りていない程度の認識だったが、地域医療の雰囲気や、私たちが地域の人々に歓迎され、期待されていることを肌で感じた。知識が伴った高学年では医師以外の医療職や機器の不足、アクセスの悪さなど課題がたくさんあることが分かってきた。また、一口に地域といってもそれぞれキャラクターや抱える問題が違うことも分かった。

では私が実際に医師として地域に行ったときに何が出来るか。今の時点では見当がつかない。とすると自分に何が出来るのか、どうすれば出来ることを増やせるのか、考えながら初期研修に臨むしかないだろう。

最後になるが、私は6年間さまざまな人に支えられてきた。今私がこうして卒業を迎えられるのもそのおかげである。これまで私に関わった全ての人に感謝したい。

● 丸目 高大

医学部に入った当初は暗記の量に驚愕する毎日でした、しかしながら高校までとは違い、みんなで勉強することが大きな相違点でした。お互いに教えあうことで刺激を与え合い、膨大な量も頭に入れることができ、難しい試験もなんとか乗り越えることができました。

6年間を振り返ると部活に明け暮れた生活だったと思います。

私は硬式テニス部に入部し、入部してからは非常にハードな生活でした。しかしそこで知り合った先輩や同級生は学校生活や私生活でも付き合い、学業で悩むことがあったらなんでも相談して乗り越えるような仲間ができました。

特に試験前になると部活の同級生で集まり、一致団結して試験を乗り越えていたことが懐かしいです。部活動で一番記憶に残っている時期は幹部の時代です。そこで培った管理能力は仕事をする上でも役に立つことと信じています。

地域枠の活動としては、普段では地域医療ゼミにて先輩方と一緒に活動をさせていただきました。シネメディケーションや臨床推論などみんなで協力して取り組む活動は楽しかったです。夏の地域医療実習では毎年、自治医大の学生の方々と交流を深めながらその地域における課題や医療体制について学ばせていただきました。

一番印象深かった年は天草での実習です。天草では保健所の方々からのお話を実際に聞きながらプレゼンの資料を作成しました。独居世帯の増加や高齢化、地理的な問題に対し、健康教室の開催など地域全体で取り組んでいる政策を知り、非常に勉強になりました。その一方で天草の街を巡ったり、住民の方に地域独自の踊りを実際に教えていただけてみんなで踊ったりと楽しみながら地域の歴史や文化を学ぶこともできました。

地域枠の先生方には地域医療ゼミ、夏の実習の他にもふとすれ違ったときに声をかけてくださったり、近況をかけてくださったりと大変お世話になりました。医師になってからも学生時代の経験を活かし、努めていきたいと思います。

地域医療支援センター

◆ 論文、執筆

- Kim-Mitsuyama S, Soejima H, Yasuda O, Node K, Jinnouchi H, Yamamoto E, Sekigami T, Ogawa H, Matsui K. Reduction in hsCRP levels is associated with decreased incidence of cardiovascular events in Japanese hypertensive women but not in men. *Sci Rep.* 2020 Oct 12;10(1):17040. doi: 10.1038/s41598-020-73905-4. PMID: 33046765
- Kojima S, Michikawa T, Matsui K, Ogawa H, Yamazaki S, Nitta H, Takami A, Ueda K, Tahara Y, Yonemoto N, Nonogi H, Nagao K, Ikeda T, Sato N, Tsutsui H; Japanese Circulation Society With Resuscitation Science Study (JCS-ReSS) Group. Association of Fine Particulate Matter Exposure With Bystander-Witnessed Out-of-Hospital Cardiac Arrest of Cardiac Origin in Japan. *JAMA Netw Open.* 2020 Apr 1;3(4):e203043. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2020.3043. PMID: 32301991
- Sueta D, Tabata N, Tanaka M, Hanatani S, Arima Y, Sakamoto K, Yamamoto E, Izumiya Y, Kaikita K, Arizono K, Matsui K, Tsujita K. Associations between corrected serum calcium and phosphorus levels and outcome in dialysis patients in the Kumamoto Prefecture. *Hemodial Int.* 2020 Apr;24(2):202-211. doi: 10.1111/hdi.12824. Epub 2020 Feb 13. PMID: 32056385
- Sumida H, Yasunaga Y, Takasawa K, Tanaka A, Ida S, Saito T, Sugiyama S, Matsui K, Nakao K, Tsujita K, Tohya Y. Cognitive function in post-cardiac intensive care: patient characteristics and impact of multidisciplinary cardiac rehabilitation. 2020 Jul;35(7):946-956. doi: 10.1007/s00380-020-01566-4. Epub 2020 Feb 12. PMID: 32052162
- Suzuki S, Kaikita K, Yamamoto E, Sueta D, Yamamoto M, Ishii M, Ito M, Fujisue K, Kanazawa H, Araki S, Arima Y, Takashio S, Usuku H, Nakamura T, Sakamoto K, Izumiya Y, Soejima H, Kawano H, Jinnouchi H, Matsui K, Tsujita K. H2 FPEF score for predicting future heart failure in stable outpatients with cardiovascular risk factors. *ESC Heart Fail.* 2020 Feb;7(1):65-74. doi: 10.1002/ehf2.12570. Epub 2020 Jan 22. PMID: 31967406
- 木村和久, 高柳宏史(分担執筆), 「コミュニケーションと倫理のハイパリュウケアー自己学習に役立つ23症例」, 日本の高評価医療: シリーズ6, カイ書林
- 高柳宏史, 「日本総合診療専門研修公式テキストブック」, 編集 日本専門医機構総合診療専門医検討委員会, 日経BP, 分担執筆
- 高柳宏史, WONCA APRC 2019 ワークショップ”Improving our care of patients with depression and anxiety” 参加報告. プライマリ・ケア. 2020, vol 5, no 2 (15), p81.
- 高柳宏史, 発展を続ける科学の中で求められる医学・医療【特集 炉辺閑話】. 日本医事新報, No 5045. 2021/1/2. P20-21
- 後藤理英子, 慈愛の心 医心伝心 「上手な時間の使い方」, 熊本日日新聞社発行生活情報紙「あれんじ」, 8月1日号
- 後藤理英子, ダイバシティ 基本のキ 医療人材の多様性推進に関する声明: 生まれた経緯, 必要性和今後の活動について, プライマリ・ケア: 実践誌. 5(2), 76-80, 2020
- 後藤理英子, 地域住民が安心して暮らせる医療提供体制を維持し、医学の進歩に資する働き方の検討, 医師の特殊性を踏まえた働き方検討委員会答申, 令和2年6月
- 後藤理英子, 内分泌学に恋したエピソード(エピソード大賞), 第20回日本内分泌学会九州支部学術集会, 2020年開催記録集

◆ 研究

- 後藤 理英子
『鉱質コルチコイド受容体を介した膵島細胞の慢性炎症とGLP-1分泌調節機序の解明』
研究種目: 基盤研究C, 研究分野: 代謝学, 研究期間: 2017/4-2021/3
- 後藤 理英子(共同研究者)
『女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言: フィンランドとの比較研究』
研究種目: 基盤研究C, 研究分野: 社会関連学, 研究期間: 2019/4-2022/3
- 後藤 理英子
『ステロイド投与による耐糖能悪化の機序及び治療法の検討』
研究期間: 2019/11-2021/3

- 後藤 理英子
『日本の男性医師と女性医師のアカデミックキャリアの構築にはどのような違いがあるか。』
研究期間：2019/5-2021/3

◆ 学会発表

- 後藤理英子, 谷口純一, 松井邦彦, 大谷 尚, 【教授職を担う女性医師はどのような指導者に出会って来たのか】, 第52回日本医学教育学会大会, 2020/7/17-7/18
- 水橋由美子, 後藤理英子, 水本誠一, 【地域で活躍する医療人のための持続可能な育児支援システムの構築】, 第52回日本医学教育学会大会, 2020/7/17-7/18
- 後藤理英子, 【シンポジウム11「男もつらいよ ~男性医師の多様性を知ることからはじめる働き方改革~」】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 広島大会, 2020/8/29-8/30, 座長
- 岩間秀幸, 高柳宏史, 吉澤瑛子, 岡田唯男, 【診療所での台風被災・診療の経験】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 広島大会, 2020/8/29-8/30
- 高柳宏史, 古賀義規, 後藤理英子, 谷口純一, 佐土原道人, 松井邦彦, 【シタグリプチン投与により血小板減少症をきたした症例】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 広島大会, 2020/8/29-8/30
- 高柳宏史, 山田隆司, 大倉佳宏, 竹島太郎, 【専門研修中から使える！ICPCを用いたデータ収集】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 広島大会, 2020/8/29-8/30, インタラクティブセッション
- 後藤理英子, 近藤龍也, 荒木栄一, 【ステロイドによる耐糖能悪化に対しGLP-1受容体作動薬の有効性を検討した1例】, 第20回日本内分泌学会九州支部学術集会, 2020/9/18-10/4, ポスター発表(Web)

◆ 講演会(講師等)

- 後藤 理英子, 【全医学生に向けてキャリア相談の機会を 出産・育児】, 第3回Generalist Party for Young in Kyushu, 2021/1/16, セミナー
- 後藤 理英子, 【日本医師会・CLOVERの会のキャリア支援について】, 令和2年度 医学生、研修医等をサポートするための会, 2021/1/27, セミナー
- 後藤 理英子, 【女性医師支援の課題点と持続可能な支援】, 令和2年度 女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会, 2021/2/2, セミナー
- 後藤 理英子, 【熊本県における医師の男女共同参画活動について】, 地域における女性医師支援懇談会〜クローバーの会〜, 2021/2/4, セミナー
- 高柳宏史, 河村洋子, 鶴田真三, 松田圭史, 【ワークショップ1「明日から活用！Positive Deveanceアプローチ」】, 第16回 若手医師のための家庭医療学冬期セミナー 日本プライマリ・ケア連合学会, 2021/2/6
- 後藤 理英子, 【レジリエンス(折れない心)のつくりかた~人間関係に悩むあなたに】, 日本女性外科医学会(JAWS)第27回勉強会 & 賀川ハル研究会第2回勉強会, 2021/2/20, セミナー
- 後藤 理英子, 【女性医師のキャリア継続・構築に対する上司の理解の重要性】, 女性医療職などの働き方支援事業リーダー研修会, 2021/3/4, セミナー
- 後藤 理英子, 【女性医師のキャリア支援：熊本大学の取り組みと今後の展望】, 日本医療マネジメント学会 第19回千葉支部学術集会, 2021/3/14, シンポジウム

地域医療・総合診療実践学寄附講座

◆ 論文・執筆

- 谷口純一, 今井千春, 東上里康司, 植田真一郎, 伊敷晴香, 新里敬, 前田顕子, 小原晴雄, 『ポリファーマシー, 沖縄からの挑戦状』, 日本内科学会雑誌, 第109巻 第4号
- 小松真成, 田村幸大, 林恒存, 西元嘉哉, 谷口純一, 吉野俊平, 『Multimorbidity 時代の内科診療』, 日本内科学会雑誌, 第109巻 第11号
- 谷口純一 (編集委員長), 「日本総合診療専門研修公式テキストブック」. 編集 日本専門医機構総合診療専門医検討委員会, 日経BP
- Michito Sadohara, Tatsuya Arai, Kou Matsuura, Clinically mild encephalitis/encephalopathy with reversible splenic lesion (MERS) associated with Mycoplasma pneumoniae pneumonia: An adult case and review of the literature, Clinical Case Reports, 8 2954-2960 2020/9/14
- Joishy S.K, Sadohara M, Kurihara M, Tokuda Y., Complexity of Diagnosis of COVID-19 in the Context of Pandemicity: Need for Excellence in Diagnostic Acumen., Korean J Fam Med, Accepted: 02 October 2020.

◆ 研究

- 谷口 純一（共同研究者）
『EPA を基盤とした段階的若手指導医養成プログラム開発研究』
研究種目：基盤研究B 研究分野：医療社会学 期間：2017/4-2021/3
- 佐土原 道人
『地域医療研修における研修医の成長とレジリエンスに関する多施設研究』
研究種目：挑戦的研究（萌芽） 研究分野：教育学及びその関連分野 研究期間：2018/6-2021/3
- 佐土原 道人
『地域医療研修による研修医のレジリエンスの変化に関する質的研究』
研究期間：2018/8/20-2022/3/31
- 佐土原 道人
『働き方改革のためのホスピタリスト・システムの導入に対し、米国で働く日本人のホスピタリストはどのような見方をしているか？』
研究期間：2018/9/20-2022/3/31
- 佐土原 道人
『地域医療研修による研修医のレジリエンスの変化に関するアンケート調査』
研究期間：2019/6/21-2022/3/31
- 佐土原 道人
『令和元年度夏季特別実習前後での参加学生の意識および知識の自己評価の変化に関する研究』
研究期間：2020/3/19-2022/3/31

◆ 学会発表

- 佐土原道人、増田翔太、加藤貴彦、【臨床研修医のストレスと燃え尽き尺度の変化】、第93回日本産業衛生学会、2020/5/13-5/16、誌上発表、旭川市
- 谷口純一、【地域医療実習で学生の学びの分析】、第52回日本医学教育学会大会、2020/7/17-7/18、Web抄録、鹿児島市
- 佐土原道人、高柳宏史、前田幸佑、後藤理英子、小山耕太、鶴田真三、谷口純一、松井邦彦、【地域枠学生等に対する夏季特別実習前後の地域医療への意識と知識の自己評価の変化～アンケート調査より～】、2020/7/18-7/20、誌上発表、鹿児島市
- 谷口純一、【熊本県における総合診療医の養成の現状分析と課題】、第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、2020/7/23-8/31、Webポスター、広島市
- 佐土原道人、谷口純一、松井邦彦、【日本で医学教育を受け米国でホスピタリストとして働いている医師は働き方にどのような見方をしているか】、第21回日本病院総合診療医学会学術集会、2020/9/26-9/27、口演、さいたま市
- 平賀 円、稲田啓介、佐土原道人、谷口純一、小山耕太、田宮貞宏、松井邦彦、【急速進行性間質性肺炎を合併した抗MDA5抗体陽性筋無症候性皮膚筋炎の1例】、第332回日本内科学会九州地方会、2021/1/9、口演（オンライン）、福岡市

◆ 講演会・講師

- 谷口 純一、熊本大学病院 認定看護師教育課程カリキュラム「臨床推論」、講師、2020/7/3、7/10、7/16、7/17、7/31
- 佐土原 道人、熊本保健科学大学認定 看護師教育課程、非常勤講師、2020/8/17
- 谷口 純一、熊本保健科学大学 認定看護師教育課程カリキュラム「臨床推論」、講師、2020/8/21
- 谷口 純一、熊本大学医学部FDワークショップ、講師（タスクフォース）、2020/8/30
- 佐土原 道人、令和2年度第1回看護師特定行為指導者養成講習会（奈良会場）、タスクフォース、2020/9/12
- 谷口 純一、【卒前教育におけるマインドフルネス】、MEDC第77回e医学教育セミナーとワークショップ、講師及びコーディネーター、2020/10/4
- 佐土原 道人、令和2年度第2回看護師特定行為研修指導者講習会（熊本会場）、タスクフォース、2020/11/1
- 谷口 純一、令和2年度第2回看護師特定行為研修指導者講習会（熊本会場）、講師（タスクフォース）、2020/11/11
- 谷口 純一、令和2年度山口大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医養成講習会、講師（タスクフォース）、2020/11/20-11/21
- 佐土原 道人、佐久大学大学院看護学研究科 プライマリケア看護学演習Ⅰ、非常勤講師、2020/12/23-12/24

- 谷口 純一, 九州大学医学部 総合医学Ⅲ・系統医学Ⅲ, 非常勤講師, 2021/1/12、1/26
- 谷口 純一, 令和2年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修, 講師及びファシリテーター, 2021/1/16、2/6
- 谷口 純一, 【地域中核病院で、新型コロナウイルス感染症感染拡大にどう対応するのか】, 日本内科学会九州地方会 教育セミナー, 企画担当, 2021/1/9
- 谷口 純一, 熊本総合診療研究会学術集会, 開催, 2021/2/11
- 佐土原 道人, 第27回徳洲会グループ臨床研修指導者養成講習会(沖縄), タスクフォース, 2021/2/27-2/28

玉名教育拠点／天草教育拠点

◆ 学会発表

- 久保崎順子、中村孝典、小山耕太、田宮貞宏、佐土原道人、谷口純一、松井邦彦, 【遺伝子検査で臨床病型の診断を行った成人の脊髄筋萎縮症の一例】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2020/7/23-8/31, ポスター
- 小山耕太, 【セッション名：口演「地域中核病院で、新型コロナウイルス感染症感染拡大にどう対応するのか」】, 日本内科学会, 座長, 2021/1/9,
- 松本朋樹, 【キャリアCafe】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2020/7/30-2020/8/31
- 松本朋樹, 【病院総合医に必須！入院診療で役立つ家庭医療学～入門編～】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2020/7/23-8/31
- 松本朋樹, 【世界の家庭医の診療を通して自分の診療を振り返ろう～ COVID19診療を通じて日本の医療を考える～】, 第16回 若手医師のための家庭医療学冬期セミナー, 2021/2/6-2021/2/7

◆ 講演会・講師

- 松本朋樹, 【ZOOMと21世紀型のキャリアの築き方】, 飯塚-颯田 家庭医療プログラムレジデントデイ, 講師, 2020/11/21
- 松本朋樹, 【総合診療医・家庭医とは?】, 第3回 Generalist Party for young in Kyushu, 講師・企画責任者, 2021/1/16

専攻医

◆ 学会発表

- 平賀円, 【急速進行性間質性肺炎を合併した抗MDA5抗体陽性の筋無症候性皮膚筋炎の一例】, 日本内科学会九州地方会, 2021/1/9, WEB開催, 口頭発表

1. 教員から

■ 谷口 純一 特任教授

今年度の4月から私が「地域医療・総合診療実践学寄附講座」の特任教授を拝命し、引き続き、大学に設置された「地域医療支援センター」の副センター長として、同センター業務と、それ以外の従来取り組んできた内外の業務とを、バランスを取りながら、整合性をつけつつ、業務遂行を行なったつもりです。しかしながら、新型コロナウイルスの影響も大きく、地域医療機関への訪問は、今年度は、ほとんど出来ず、業務の方向性もコミュニケーションの困難さに直面いたしました。

具体的には、寄附講座、地域医療支援機構における、自分の活動として、特に、

- 1) 県内地域医療機関関係者への訪問、面談と分析・対応検討
- 2) 総合診療専門医の養成に関する企画・立案
- 3) 地域医療関連の卒前教育の実施
- 4) 修学資金貸与制度の制度運営の実施と整備
- 5) 地域医療機関への診療・教育支援
- 6) その他、機構関連諸業務(運営会議、連絡調整会議、理事会、等)

また、寄附講座、機構業務以外の、個人的な大学内外業務の方は、

- 1) 大学病院総合診療科外来診療、及び、救急外来診療
- 2) 医学部医学科の卒前教育での地域医療以外の複数の授業・実習
- 3) 大学卒前医学教育の横断的な業務補佐
- 4) 卒後初期研修・専門医研修(総合診療)の指導・プログラム管理補佐
- 5) 学外の様々な依頼業務(共用試験実施評価機構委員、臨床研修指導医養成ワークショップ、看護特定行為研修関連、等)
- 6) 学会等の各種委員会活動(熊本総合診療研究会の運営、内科学会専門医部会、日本専門医機構総合診療専門医部会、など)

に取り組んだつもりです。

上記業務は、一定の成果が上がったと思われませんが、これから更に充実・整理させていく、或いは新たに取り組むべく必要性のある部分もあります。しかしながら、地域医療や総合診療専門医養成に関する、企画立案、交渉を行っても、意思決定のプロセスで困難を感じる事も多く、運営の困難さにも直面しております。この為、次年度は、多方面にご迷惑やご心配をおかけするかもしれませんが、可能な限り、診療業務、地域医療支援、総合診療医の養成、卒前の医学教育の充実、等に向け、自部署関連の協力体制を変化させ、外部のご理解・ご支援を更に活かせる様に取り組んでいく所存です。

■ 佐土原 道人 特任助教

地域医療・総合診療実践学寄附講座に赴任してまる4年が経ちました。本年度は一部人事異動がありますが、私はそのまま留任でお世話になっております。診療支援先は、昨年に引き続き蘇陽病院、新規で公立多良木病院にお世話になりました。今年度は、研修医とあまり現場での指導の接点がありませんでしたが、多良木病院では、専攻医向けにカンファレンスを行い、専攻医に直接指導する機会を得ました。昨年度の夏季地域医療特別実習は台風で1日短くなり、今年度の夏季地域医療特別実習はコロナ禍で延期、冬季地域医療特別実習として規模や参加人数を小さくし、感染対策を十分して再計画しましたが、第3波の影響で断念となりました。コロナ禍で、学習形態や人の移動や距離、医療アクセスや働き方が変わる中、地域に赴いて、現場を見て感じるための新しい実習方法を模索しなければなりません。

コロナ禍で、出張は激減し、これまで行ってきた臨床研修指導医講習会は減少、看護師特定行為指導者養成講習会もオンライン併用の工夫、看護大学院の実習授業も感染対策を厳重な上の実施と、例年がない影響がありました。学会発表の機会は減りましたが、余った時間で、英語論文を終筆して2篇アクセプトされました。

今年度は、科研費の最終年度ですので、成果をきちんとまとめたいと思います。また、総合診療専門研修の専攻医が初めて修了する年ですので、来年の専門医試験に向けての修了判定を滞りなく行いたいと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

■ 後藤 理英子 特任助教

コロナは男女共同参画推進活動に良くも悪くも影響しました。良かったことは各学会、会議がWeb上で開催されたこと。これまで育児で十分に参加できなかった学会にも参加でき、会議のための移動時間が減り、時間の余裕が出来ました。悪かったことは、男女共同参画推進の活動そのものが後回しにされがちであったこと。年度末が急激に忙しくなりました。コロナはこれまでに燻っていた様々な課題点を浮き彫りにしました。また同時に人の温かさに感謝した1年でもありました。アフターコロナでは、属性に関係なく全ての医療人が働きやすく活躍できる環境が整うよう、今後も粛々と多様性推進を支えていきたいと考えています。

■ 高柳 宏史 特任助教

2020年度における自分の時間配分は、

【診療】= 2

【教育】= 3

【研究】= 0

【組織】= 1.5

【学会】= 0.5

【家庭】= 2

【睡眠】= 1

といったところでしょうか。個人的には、【研究】への配分ができるようになればよいと思いますが、自分ではどうしようもないことで時間がとられているようにも思います。2020年度は、新型コロナウイルス感染症によってたびたび学生への教育的な方法が変更になりました。幸いなことに大学病院や医学科でクラスターが発生することなく1年間を終えることができたのはとてもよかった事です。新型コロナウイルスのワクチンが驚くほど早期に開発され供給されたのは驚きました。その一方で、集団免疫が効する接種率が低く見積もっても60%だとすると、その域まで達するのはさらに1年は必要ではないかと思われる。早く、マスクを外し、みなで労をねぎらうような会食をしたいものです。

あと、2020年度では、また熊本で大きな災害が発生しました。球磨川流域を中心とした令和2年7月豪雨災害です。被災地域はいまだに復興の最中にあると聞きます。少しでも2021年度は多くの人に笑顔がみられる年でありますように。

■ 田宮 貞宏 玉名教育拠点指導医(くまもと県北病院 副院長/総合診療科)

振り返ると今年度は日常診療・教育を積み重ねて玉名拠点・総合診療科を発展させていくといった、これまでのスタンスを踏襲するには難しい時間が続いた印象です。一大事業である病院の統合・移転・新病院開業を3月に控えるなか、予想を遥かに超えるコロナのパンデミックの影響が玉名拠点・総合診療科にも通常とは異なる業務の増加や教育の機会の減少といった形で現れました。この逆境の中で玉名拠点・総合診療科のスタッフは様々な要請に応え、病院の難局を乗り越える原動力になってくれました。頼もしい仲間がいつもそばにいてくれることに感謝いたします。

コロナ禍や病院統合移転・開業では診療科、各部署間の調整に加え、院外の施設、団体との協働が重要となりますが、これは一朝一夕にできるものではなく、日常診療(平時)の際から診療スキルのみならずコミュニケーションスキルを磨き、積み上げられてこそ機能するものです。診療体制の変容が必要な際にあたかもコロナウイルスのスパイク蛋白に変異が加わり感染性が変化するように、玉名拠点・総合診療科が様々なニーズに柔軟に対応することで病院や地域のレジリエンスが強化されることを実感しました。平時も有事も目的を見失わず、原理主義に陥らず、柔軟な行動をとれる組織づくりと、それを実現するための診療スキル、コミュニケーションスキルを意識して教育に携わっていきたいと思います。

■ 小山 耕太 玉名教育拠点指導医(くまもと県北病院 総合診療科部長/総合診療科)

「ゆっくりだけど、確実に前進」

熊本大学に帰還して8年目、教育拠点に赴任して7年目に突入しました。私は当初から冒頭の言葉を常に口にしてきました。これは、常に自分が周囲の人・組織・地域に役立つ存在であるという、他者評価を得られているか、自問する目的に発する言葉です。

昨年の年次報告書で、私は玉名地域の診療と、熊本県の総合診療教育を牽引する総合診療科を、これからも発展的に展開することお約束しました。以下、達成した事と、未達を列記します。

<達成>

- ①これまでの病院総合医としての業務に加え、家庭医としての訪問診療業務を開始。
- ②救急外来宛の紹介患者トリアージ業務(午後診)を開始。
- ③消化器内科とコラボして、上部消化管内視鏡検診業務の研修を開始。
- ④COVID-19入院診療への参画。

<未達>

- ①上記①の病院収益に対する業務改善について具体化。
- ②働き方改革の具体化。
- ③研究業績の積み上げ。

「善きことはカタツムリの速度で動く」

マハトマ・ガンジーの言葉です。冒頭の言葉の元になったものです。焦るつもりはありませんが、今年度は上記未達を少しでも達成すべく、また、新たな課題も抽出しつつ、ゆっくりだけど、確実に前進する所存です。

どうか、皆様のご指導とご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

■ 鶴田 真三 特任助教(天草教育拠点/天草地域医療センター 総合診療科)

天草地域医療センターでの2年間が終わりました。個人的には、2年目になると、だいぶ病院勤務にも慣れたように思います。また、時間が長くなる分、継続的にかかわる患者さんも増えました。個人的な診療としては、患者さんからのありがたい言葉をもらうことも1年目より増えたことが、やりがい、普段のモチベーションになっていました。ささやかながら在宅医療も行い、3名の在宅でのお看取りにも関わらせていただきました。

施設としては、スタッフ不足、専任医不在、学生も少なく、教育拠点としての役割も寂しいものだったように思います。特にはじめ7か月はスタッフ2人体制で、診療をまわすことで精一杯でした。

ありがたいことに医療センター総合診療科としての地域や院内からのニーズは確実にあると感じます。しかし、求められるパフォーマンスを維持し、そのうえで教育も充実させていくには、ある程度のマンパワーが必要です。現実的には総合診療科医師はまだまだ不足しており、天草に人員が充足することは難しいと思います。医療センター、大学の先生方、地域、市、県など様々な方々にご協力してもらいつつ、今後も総合診療科医として天草でのかかわりをどうしていくかを考えていきたいと思っています。

私は医療センターの常駐ではなくなりますが、これからも天草の一員として頑張ります。これからもなにかとご協力、ご理解の程、よろしく申し上げます。

■ 松本 朋樹 特任助教(天草教育拠点/天草地域医療センター 総合診療科)

天草拠点に来て、あっという間の一年間でした。

「実家の継承を見据え、天草に戻ってきたい」という突然の希望を聞いてくださった教授はじめ先生方には感謝しかありません。

振り返ってみると、2020年度、天草拠点では外来患者864名、救急患者389名、入院患者308名の患者さんたちを診療していました。

年末まで医師2名体制に減員してのスタートでしたが、医師あたりの診療患者人数は一昨年よりも上昇し、高いパフォーマンスが維持できたかと思います。

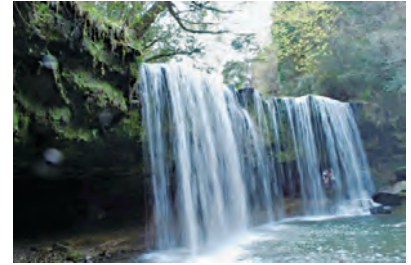
今後も、地域のために貢献を続けることが出来るよう研鑽を続けていきます。

今年度の目標は「地域に開かれた総合診療科にする」ことを目標に、多職種連携や地域医師会との連携を強めていきたいと考えています。

地域のために何が出来るか、組織のために何が出来るか、ひたすら探求し続けていく一年にしようと思います。

■ 片岡 恵一郎 客員研究員(小国公立病院 病院事業管理者)

2018年度より、松井先生と谷口先生のご厚意により客員研究員として、小国公立病院に勤務しながら、月に1回地域医療支援センターのミーティングに参加させていただいております。今年度は新型コロナウイルスの関係で、ミーティングに参加できない月もありましたが、大学で触れることのできる情報は、地域にどっぷり浸かっている日常とは異なった視点で地域医療を俯瞰的に見ることができ、自分にとって大変貴重な時間となっております。



小国郷は小国町と南小国町併せて約10,000人の地域です。このコロナ禍で感じている事は、この10,000人という数は、コミュニティとして理想的な数なのではないか、という事です。

少し前に流行ったサピエンス全史という本に、「ホモ・サピエンスはフィクション(ストーリー)を生み出しそれを共有することで、力を合わせる事ができる様になったので、地球を支配できる様になった」という記載がありました。これまでのコロナ禍(第3波まで)で小国町・南小国町の感染者数が県内でもトップクラスに低かったのは、地形的にゾーン分けされていることでもあります。迅速なストーリーの共有ができる人口規模である事は大きな要因の1つではないか、と考えています。この10,000人のコミュニティの規模であれば、地域の医療やケアのストーリーの共有も比較的容易であり、住民主体の地域医療を構築する上で、かなり有利な条件が整っていると言えるでしょう。

2021年4月より、私は病院事業管理者という小国郷の地域医療のストーリーを語る立場になります。大学で触れることのできるグローバルな知見をベースに、町で暮らす人達の生活をしっかり見て、地域に適切なストーリーを語れるよう、知識と経験を積みあげていきたいと思っています。

2021年度は、学生さんや研修医の先生が地域医療や総合診療について体系的に学べる環境を、病院として整えて行きたいと思っています。多職種連携がうまくいっている地域包括ケアシステムのモデル地域の1つとして、質を担保した研修ができる様、環境を整えていきたいと考えています。

■ 古賀 義規 客員研究員(御所浦診療所 所長)

御所浦診療所は熊本県内で離島医療を経験できる数少ない診療所の1つです。今年度は空田専攻医に赴任して頂き、総合診療科医師2名による常勤体制となりました。例年通り医学生実習を受け入れましたが、COVID-19感染症流行中の今年は幾分異なるものでした。離島は感染症の流入には敏感な地域であり、医学生実習の受け入れ直前にPCR検査で陰性確認して頂いていたのは島民の安心感につながったと思います。一方で上天草で企画されていた夏季実習の一部を御所浦でも受け入れる予定だったのですが、COVID-19感染拡大のため中止となり、さらにその代替案として企画された御所浦地域主体の冬季実習も流行再燃のため直前に中止となりました。企画準備に携わって頂いた大学関係者の皆様、参加予定だった医学生の皆様、受入準備をしていた島内関係者全員がコロナに振り回されました。



ところで令和3年度は新たな医科と歯科の複合診療所が竣工予定です。「地域で働く医師は地域で育てる」ことの重要性を、熊本県や上天草市にご理解いただき、研修医や医学生のための宿泊施設も併設されることになっています。

今後も、県や大学と連携しながら、より多くの医学生や研修医に離島・へき地での地域医療に理解を深めてもらい、地域医療・家庭医療にやりがいをもって取り組める人材育成の一助になりたいと思っています。

■ 中村 孝典 上級医

2020年度は前年から引き続き玉名中央病院の総合診療科で、一般外来、救急外来、病棟業務を行いながら、医学生、初期研修医、後期研修医の指導を行いました。

業務的には前年度から大きく変わることはありませんでしたが、草野先生が新たに総合診療科に来られたことで診療も教育も今までよりパワーアップすることができました。

個人的な感想としては、covid 19感染拡大による医療現場への影響だけでなく、2021年3月の新病院への引越に向けて当科の小山部長、田宮副院長が関係各所と繰り返し小まめに調整を行っていた姿がとても印象に残っています。

また私ごとではありますが2021年に第二子が誕生いたしました。前述の通り上司はとて多忙でありましたが、妊婦検診や出産のため職場に迷惑をかけることも多々ありました。後期研修が終わり、上司をサポートしなければいけない立場でしたが診療や教育の面でサポートすることができず科に迷惑をかけたこともあったかと思えます。ただ上司や同僚、後輩達が優しく対応いただきとても感謝をしています。

改めてこの一年を振り返ると感謝と反省の二文字が残ります。恩返しはもちろん、この一年で自分が恩を受けたように今度は自分が他人のために働けるよう精進していきたいと思えます。

■ 武末 真希子 上級医

2019年度に帰熊し、玉名拠点と、2020年11月からは天草拠点で勤務させて頂きました。家庭医療専門医プログラムの後期研修中は、内科急性期管理を集中的に行う機会は少なかったため、勉強になった2年間でした。玉名では膠原病関連の診断、治療に関わることも多く、苦手分野の経験を積めたことが財産となりました。天草では、土地特有の疾患や、熊本市内の大きな急性期病院の受診のハードルが高い中での診療など、天草特有の医療について学ぶことができ、勉強になりました。

来年度以降の方向性を考える中でクリニックの見学をした際に、地域へのアプローチの工夫を色々な角度からされている話を聞き、とても勉強になり、その熱意にも刺激を受けました。来年度は診療所で勤務させて頂き、家庭医として、より地域に密接した診療や、小児など幅広い診療について、更に経験を積みたいと考えています。社会人大学院という形で研究にも携わっていこうと考えており、様々な場での診療経験を活かし、研究や後進の指導という形で還元していけるように頑張ります。今後ともよろしく願いいたします。

■ 松田 圭史 上級医

今年度は家庭医療専門医試験を受験する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で試験が延期となりました。昨年度に引き続き小国公立病院での勤務でしたが、今年度は新型コロナウイルスの対応に追われた1年であったように思います。その中で一医師として新型コロナウイルスの診療を行うだけでなく、病院としてどのような役割を担うか、住民に対してどのように情報発信を行うかなど、より広い視点で関わることができたのはとてもよい経験となりました。新型コロナウイルスをきっかけに時代が大きく変わり、今後も目まぐるしく状況が変わっていくことが予想されますが、総合診療医としての役割を日々考えながら、よりよい診療を実践できるよう努めていきたいと思えます。

2. 事務から

松岡 大智

地域医療支援
コーディネーター

今年度は「コロナ」に明け暮れた1年でした。これまでの生活様式が見直され、いろんな「新しい日常」が生まれた年でした。

そんな中、セミナーや面談も移動を伴わない「リモート会議」の開催が多くなり、パソコンの前に座ったまま、他人と顔を合わせ、大勢の人とそこにいるような感じでお話をする、初老のおじさんが昔読んだ想像の世界を現実を経験するという何か不思議なことが起きた1年でした。

新しいことに手を出すことに億劫になりストレスを感じるおじさんも、そのうち何とか抵抗なく操作できるようになりました。若い時には時々のトレンドに柔軟に対応できているつもりで、ワープロも使わないおじさんを見て不思議な気がしていました。でも今、自分も新しい機械に戸惑うおじさんであることに、はたと気が付きました。IT時代の新しい日常はおじさんには「やをいかん」ことを実感しています。

若杉 秀作

地域医療支援
コーディネーター

2020年4月より、地域医療支援センターにて勤務しております。

本年度は、正にコロナウィルス感染症の真ただの中、様々な事業の取組みが制限せざるを得ない状況となったことは残念でなりません。

さて2021年度、コロナウィルス感染症の影響は、まだまだ予断を許さない状況ではありますが、昨年度の経験を踏まえ、工夫をこらした事業の取組みを展開すべく、微力ながら頑張っています。

2年目となる私が意識することとして、「熊本県医師修学資金貸与制度」に基づき貸与を受けている学生、医師の皆さんへ、「医師としての10年後、20年後の青写真を描いていただき、県下医療機関にて活躍いただきたい」と、そのためにも、地域医療に関する認識を深めていただく取り組みを継続的に発信していきたいと思えます。

高塚 貴子

女性医師復職支援
コーディネーター

あっという間の1年でした。コロナの影響で年度初めは予定のセミナー等が中止となり、相談に関しても求人に関する医療機関からの問い合わせが大幅に減少しました。話し合いの為に訪問したとある医療機関では建物に入る毎に検温と手指消毒が徹底され、とても厳重に感染対策がされていたので、なかなか医療機関に訪問するのにもためらう1年でした。しかし、地域医療支援センターでもZOOMが導入され、オンラインでのセミナーや面談ができるようになり、今までとは違った様式で事業を遂行することができました。

早くコロナが収束して皆が穏やかな日常に戻れるよう願います。

山並 美緒

こちらにお世話になり5年が経ちました。「ピンチはチャンス」と言いますが、今年度はこの言葉を身に染みて感じた1年でした。

新型コロナウイルスの影響で例年通りとはいかず、業務が大きく変わり、Web講義、Webセミナーの設定から配信、オンライン申込みやアンケートの集計、感染対策を徹底しての対面実習の企画・準備(結局中止となりましたが…)など、平常時にはなかなか経験できない新たなスキルが多く身に付きました。

また、緊急事態宣言時の小学校休校の際は、仕事と育児との両立が難しく、勤務時間を調整していただきなんとか乗り切ることができました。その際は先生方、事務の皆様にはご迷惑をおかけしました。この場をお借りして御礼申し上げます。しかし、そのおかげで「一人で出来ることには限界がある。周りに頼ることも必要」という生きていく上で大切なことに気づくことができました。ありがとうございました。

学んだことを活かし来年度も陰ながら皆様のサポートを頑張りたいと思えます。よろしく願いいたします。

山口 香

今年度は新型コロナウイルスという未だかつて経験したことのない感染症の流行によって、当講座としてのイベント、学会参加、実習、講義等々、あらゆるものの変更、中止を強いられた1年でした。私が担当させていただいた特別臨床実習(クリクラ)総合診療科、地域医療ゼミ、講義等は中止になることはなかったものの、その多くが学外に行けず院内実習に変更になったり、オンラインでの実施になったりと、ご担当の先生方を始め、事務もコロナ禍に対応するための準備に振りまわされた年だったように思います。ただ、ECEⅢでは、こういった状況においても、出来る限り学生教育に協力したいという想像を超える数の施設の先生方にご協力頂けたことは大変感動致しました。また、地域医療ゼミでは、熊本豪雨で被災されながら診療を継続された先生方のお話や認知症のご家族との生活の実体験のお話しなど、多忙な遠隔地勤務の先生方や他業種の方を講師にお招きできたことは、Zoom等を利用したオンライン開催での利点であり、参加した学生にとっても有意義な時間となったように思います。

日常を取り戻すまでにはもう少し時間がかかりそうな状況ではありますが、この状況下で学べることも多いと思います。一日も早い収束を祈りながら、今すべきこと、出来ることを私なりに考えて、来年度も前向きに頑張っていきたいと思います。

大西 留美

地域医療支援センターの事務補佐員として、昨年2月から勤務しております。業務に携わるなかで、地域医療の現状やその改善に奮闘する先生方・職員、将来貢献しようと頑張る学生さんの存在を知り、微力ながらお手伝いさせていただきました。コロナウイルスの影響で、講演会やセミナーの開催形式がオンラインになり、戸惑う事ばかりの一年でしたが、皆様に助けられ貴重な経験をさせて頂きましたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

横手 友紀子

1年前、新型コロナウイルスに関するニュースが国内でも取り上げられ始めた頃、その影響により、今まで「当たり前」にあると思っていた日常が“あたりまえ”でなくなってしまうなどとは、少しも想像していませんでした。

例年、医学生や地域の医師へ向け開催している講演会やセミナー、ふるさと実習等の事業は、実施を見合わせざるを得ない状況にありましたが、Web配信システムの導入により、少しずつ再開されてまいりました。また、それは県外や県内でも遠方にお住まいの方からも講演会等に参加いただけ、なかなか発信できていなかった地域にも届けることができ、このコロナ禍が転じてプラス(福)となりました。(ふるさと実習の再開は、まだ少し先になりそうですが...)

まだ、以前のような日常を制限される日々には慣れることができず、少し息苦しさを感じることもありますが、この状況を上手く付き合い、利用しながら、これからも熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療支援センターの活動がより良いものとなり、皆様に寄り添えるよう、この事業を精一杯サポートしてまいりたいと思います。

3. あとがき

2020年度は、COVID-19(新型コロナウイルス)のパンデミックで、日本のみならず、世界中が大きな災難に見舞われ始めました。世界的に医療の現場もその対策に追われ、熊本県の地域医療機関にとっても、苦悩に満ちた年となりました。

その様な中で、2020年度の私ども「地域医療支援センター」の活動をご報告させて頂きました。設置から7年目となり、今年度は、新たに、私どもの熊本大学病院の「総合診療科」、「地域医療・総合診療実践学寄附講座」の体制も変わり、「玉名拠点」、「天草教育拠点」も苦労しながらも、体制を維持し、地域医療に貢献しながら、人材養成をする事が少しでもできたのでは無いかと感じております。次年度2021年4月からは、新たに「河浦拠点」を新たに設置し、総合診療専門医養成を行う体制を更に整備しつつ、地域医療に貢献できればと願っております。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、熊本大学医学部医学科の授業・実習も多大な影響を受けましたが、地域枠学生に対して行っている、「地域医療ゼミ」もかなり縮小してWebで実施となり、現地を訪問して行う、「地域医療特別実習」は中止となり、地域医療の学びの貴重な時間が限定される状況となりました。しかしながら、2022年度からは、入試制度が変わり、地域枠入学者が5名から8名と増える予定となっております。今後、県の修学資金貸与制度の卒業生がますます地域の医療機関に出ていく事が増えて参りますが、専門医修得のための「キャリア形成プログラム」も整備・提示でき、それを補完する「総合診療特別プログラム」も提供する事ができました。今後、地域貢献とキャリア形成を更に充実させていく方策を進めていきたいと思っております。

男女共同参画事業も「熊本県女性医師キャリア支援センター」として、地域で働く若い女性医師のサポートをしつつ、県全体で女性医師の活動を支援する活動を、地道に着実に続けておりますが、少しずつ成果も出てきていると思われます。こちら、より一層のご理解を賜りたいと願っております。

次年度も、引き続き、熊本県とも更に協力して「地域医療対策協議会」の実施・運営や、「熊本県地域医療ネットワーク構想」の遂行に協力し、熊本県の「第7次保健医療計画」の実現に微力ながらお役に立てればと願っております。

最後に、谷原病院長・機構理事長を始め、大学内の様々な先生方、事務方等には多々ご指導・ご支援頂きました。また、当地域医療支援センターの事務部門のスタッフの方々および、県庁の医療政策課の方々にも、多大なるご助力を頂きました。本年度も地域医療の貢献の為にご理解頂いた全ての関係者に、あらためて、一層の感謝を申し上げますとともに、次年度もどうか宜しく願い申し上げます。

地域医療・総合診療実践学寄附講座／地域医療支援センター
谷口 純一

熊本県地域医療支援機構／熊本大学病院 地域医療支援センター

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘1-1-1

Tel:096-373-5627 Fax:096-373-5796

E-mail:chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

HP:http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/



熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘1-1-1

Tel:096-373-5794 Fax:096-373-5796

E-mail:chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

HP:http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/dcfgm/



令和 2 年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

